

各地の話題市 塩竈

2023年7月21日号掲載



離島のコメ作りを絶やさないために

松島湾内の浦戸諸島で最大の島である寒風^{きぶさわ}沢島では、江戸時代からコメ作りが行われてきたが、東日本大震災以降、島民の高齢化などにより担い手が減少し、現在は数軒のみが栽培している。

この島で休耕田を再生してコメ作りを伝承する取り組みを、加藤信助さんが行っている。

加藤さんは父親が寒風沢島出身で、震災後に津波被害を受けた農地復旧に取り組むNPOで活動したことが就農のきっかけだ。島に移住してジャンボニンニクやトウガラシなどの栽培をしながら、島内のコメ農家の手伝いなどを行ってきた。

今年に入り、クラウドファンディングによりトラクターや苗などの購入資金を募り、協力者への返礼を兼ねた農業体験イベントを開催。休耕田の雑草除去などを行い、整備した水田で今年5月に初めての田植えを行った。

今年の田植え直後（5月上旬）



加藤信助さん



秋に収穫する新米は出資者への返礼品とするほか、インターネットでの販売を予定している。将来的には作付面積を増やし、コメの生産を拡大するほか、観光客向けの農業体験なども行いたいと考えている。

【記事提供】塩竈市農業委員会